

一隅を照らそう
6月号

305号
毎月28日発行

E-mail: info@tougakuin.jp

ヒメジヨオン(姫女苑)

折りふしのはな

そこかしこで見かける

ヒメジヨオン

ありふれた花かもしませんが

反面

"どこでも咲ける"
と 言うことですかから

その届託の無さと
たくましさを 私も

見習いたいです (遊)

月例行事案内

◎八 日 午後二時
薬師如来祈祷会 観音經読誦

◎十二日 午後二時
智泉院法要日 (於・日本橋茅場町)

◎十八日 午後二時
観音經読誦法要 (於・神木観音堂)

◎二十八日 午後二時
不動明王護摩供修行

*毎朝六時より公開で朝のお勤めをしております
ご都合のよろしい時にはご一緒にどうぞ



神仏習合と日本人

住職 中島 有淳

五月は改元で令和ファーバーが湧き起こり、種々な場面で奉祝現象が見られました。まるでお祭り騒ぎです。

當山に限つて言えば、それは「ご朱印」という形で現れました。五月一日のその日は、折しも十連休中の「つづじ見物」と重なり、例年になくご朱印を希望される人が大勢でした。ブームといわれてきましたが、特に「令和元年」のこの日はご朱印を求めて沢山の来山者でした。このことは明治神宮を初め多くの神社でも同様で、本来の寺院のみならず、これ程神社にも人気が出て来たのに時代の大きな変化を感じます。これは明治以来分離されたきた神仏の習合が天皇の譲位の出来事で改元され、そこに人々の神仏に対する部分の琴線に触れたということかもしれません。

日本は元来「神の国」でした。

その神には三つの特徴がみられます。

一、山の向こう、空の彼方

二、姿や形が無い

三、「荒ぶる神」ということ

古来より日本人は、神祇信仰という神さまを拝む信仰を持つていました。自然現象に対する畏怖や崇拜は人間の力を超えた絶対的な力に対する信仰を意味します。社は神の宿る所であり、神木、巨岩などは神の憑代がありました。

そこに仏教が朝鮮半島から六世紀中頃に伝わりました。欽明天皇の時代です。その時日本に持ち込まれた釈迦仏の金銅仏一軀。当時の人々は、形ある仏の姿にびっくり仰天したに違いありません。そこから、日本の神と仏がどう関わっていったのか。お寺の中に神社があり、神社の中にお寺がある。いわゆる「神仏習合」です。でも「神仏融合」ではありません。融合となると新しい信仰、宗教となります。神と仏は重なり合っていますが、夫々が別々に重なっています。

西行法師が伊勢神宮に詣でた時の歌といわれる

何事のおはしますをば

知らねども

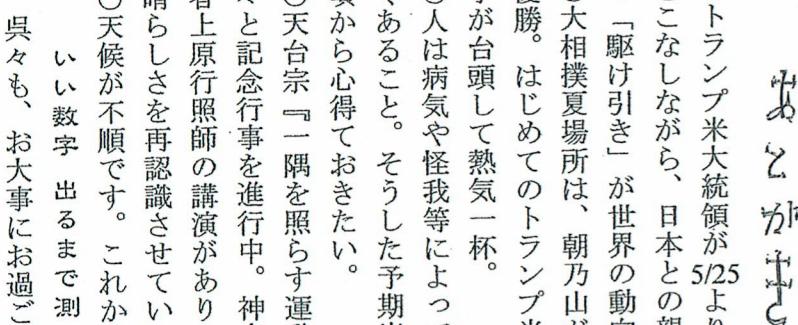
かたじけなさに涙こぼる

はこの部分についてを端的に表現されているといえましょう。

明治元年から平成三十年まで「明治一五〇年」でした。国は「神仏混淆を禁止する」と乱暴に決断して、神道による中央集権国家をつくりました。近代化を目指したその政策は、余りに短絡的で強硬でした。

古い家庭は今でも神棚があつて仏壇もあるという所が多い筈です。あたりまえに思つてゐることも、文化の大切な部分です。

一五〇年経つた今、一度は分離されたかに見えた「神仏分離令」も私たち国民の心情には消化不良です。『令和』となつたこの時代にいま一度、日本が歩んで来た道を振り返り、自問する時が來ているように思ひます。



第9回 止觀（坐禪）会

6月8日(土)10:00~11:00 (500円)
月に1度の坐禪会。菩提樹の薰る頃、
本堂で静かに瞑想してみませんか。



夏のうた 歌いましょ

なつかしいアコーディオンの音色で
小さい頃口ずさんだ歌を
一緒に歌ってみませんか
大きな声を出して 身も心も軽やかに
リフレッシュ! (遊)

*日 時 6/8 薬師如来法要終了後
3時ごろから広間にて、40分程度
無料、どなた様もお気軽に

○トランプ米大統領が5/25より三泊四日で来日。過密スケジュールをこなしながら、日本との親密度を演出することでしょう。政策の「駆け引き」が世界の動向に影響します。
○大相撲夏場所は、朝乃山が五十八年ぶりという平幕いきなりの優勝。はじめてのトランプ米大統領杯に「うれしいツス」と。若手が台頭して熱氣一杯。
○人は病気や怪我等によつて仕事や将来の予定が変わることはよくあること。そうした予期出来ない事は誰にでもあることと、頃から心得ておきたい。

○天台宗『一隅を照らす運動』が発足して五〇年。宗としても色々と記念行事を進行中。神奈川教区も先頃、横浜にて千日回峰行者上原行照師の講演がありました。そして、行者さんの厳しさ素晴らしさを再認識させていただきました。

○天候が不順です。これから梅雨に入り、鬱陶しくなるでしょういい数字 出るまで測る 血圧計 (サラリーマン川柳より)